石垣護岸のヤナギ植栽

太田　滋規

◆背景・目的

これまで、コイ科魚類の産卵や発育場所の造成を目的にヨシ帯の造成を行ってきたが、本来のヨシ帯はヨシを中心としてマコモやヤナギ、多種の水草で構成される植物群落（ヨシ群落）を形成し、そこには、多種多様な生物が生息していた。

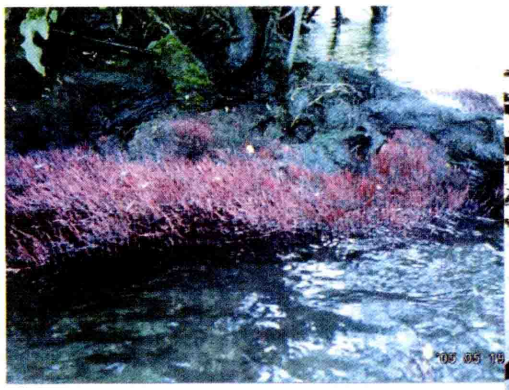
湖岸に自生するヤナギの水中根にはコイ科魚類の産着卵がみられ、特に波あたりの強い場所の水中根はホンモロコの産卵に有効である。そこで、ヨシ帯造成地の先端部にある波あたりの強い石垣護岸にヤナギの植栽を試みた。

◆成果の内容・特徴

- 新旭地区の造成ヨシ帯の先端部の石垣の間隙に、周辺に自生しているヤナギの枝をさし、ゴミよけフェンスの杭に垣根縄で縛り付けた。
- ヤナギの枝を10本植栽試験を行ったところ、波に流されることもなく2週間後には10本とも発根した。
- ヤナギの根は約5ヶ月後には杭や石に張り付き、容易に動かなくなったため、活着したと判断した。活着したものは10本中8本であった。

◆成果の活用・留意点

- 簡易な方法でヤナギは活着したが、今後はこれらが産卵基体として有効に機能するまでの期間の検討や、造成ヨシの生育を妨げないような管理方法も検討する必要がある。



湖岸に自生するヤナギの根
マット状に発根している。

ヤナギ植栽試験2週間後

ヤナギ植栽試験約2ヶ月後